

厚生労働行政推進調査事業費補助金
(地域医療基盤開発推進研究事業)
病院薬剤師へのタスク・シフト/シェア普及に対する阻害要因の把握と
その解決に向けた調査研究 (22IA0101)
令和4年度 総括研究報告書

「医師から病院薬剤師へのタスク・シフト/シェアの進展の阻害要因や課題に関する実態の
把握、分析」

研究分担者 寺田智祐 京都大学・教授

研究要旨

病院薬剤師へのタスク・シフティングは必ずしもすべての病院で進んでいるわけではなく、進展の阻害要因の解明が求められる。本研究では、外来がん化学療法に焦点を絞り、インタビューによる意識やニーズの変化に関する質的調査を実施した。研究プロトコルを作成し、倫理委員会の審査を受け、承認が得られた。1施設でインタビュー調査を実施し、さまざまなキーワードが得られた。研究計画の立案は完了し、パイロット調査を開始している。当初の研究計画どおり研究が進んでおり、引き続き、研究を遂行していく。

A. 研究目的

令和3年9月30日に厚生労働省から「現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト/シェアの推進について」が発出され、現行制度の下で医師から他の医療関係職種へのタスク・シフト/シェアが可能な業務の具体例や、推進するに当たっての留意点等が示されている。医師から薬剤師へ薬剤関連業務をシフトすることで、医師の業務負担軽減のみならず、医薬品適正使用や医療安全の推進の効果が期待される。しかし、病院薬剤師へのタスク・シフティングは必ずしもすべての病院で進んでいるわけではなく、進展の阻害要因の解明が求められる。すなわち、病院薬剤師業務をより効率的で生産性の高い業務構造に変革するための現状課題の抽出、論点整理が必要であ

る。

令和2～3年度に実施された厚生労働科学研究「病院薬剤師へのタスク・シフティングの実態と効果、推進方策に関する研究」(研究代表者:外山聡)の調査では、多くの施設で病院薬剤師へのタスク・シフティングが実施されていたが、その業務量は1週間で10時間程度とかなり少ないことが明らかとなった。また、「タスク・シフティングの推進に係る施設特性を明らかにする必要がある」と考察されている。本研究では、これまでの大規模調査研究で明らかになった全体像をもとに、各実施施設での「医師から病院薬剤師へのタスク・シフト/シェアの進展の阻害要因や課題」を明らかにすることを目的とする。

B. 研究方法

医師から病院薬剤師へのタスク・シフト/シェアは多岐にわたるが、詳細に要因を分析するために、今回はタスク・シフト/シェアが比較的進んでいる外来がん化学療法に焦点を絞る。

初年度には研究代表者、分担研究者ならびに関連学会や行政などの有識者と議論を行い、インタビューによる意識やニーズの変化に関する質的調査と、業務時間変化の量的調査の調査プロトコルを設定する（調査対象[医師、薬剤師、患者等]、比較対象[前後比較、施設間比較]なども検討する）。決定したプロトコルに基づいて京大病院及び関連病院でパイロット調査を実施するとともに倫理申請を行い、プロトコルを最終決定する。また、これまでの日本病院薬剤師会の調査結果に基づいて、大規模病院、中小規模病院それぞれから5施設ほどの調査協力施設を選定する。

(倫理面への配慮)

研究実施にあたり京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会の審査を受け承認され、協力研究実施施設の承諾を得て実施した。

C. 結果

2023年3月までに7度の班会議を実施しながら、インタビューによる質的調査と業務時間変化の量的調査（薬剤師及び医師を対象）に関する研究プロトコルを作成した。京都大学 医の倫理委員会の審査を受け、承認が得られた【課題名：病院薬剤師のタスク・シフト/シェアに関する調査研究：混合研究法、承認番号：R3737、承認日：2023年

2月1日】。

[受付番号] R3737-1	
2023年02月01日	
許 可 書	
研究責任者 所 属：医学部附属病院 薬剤部 職 名：教授 氏 名：寺田 智祐 殿	
課題名：病院薬剤師のタスク・シフト/シェアに関する調査研究：混合研究法	
上記課題の実施につき、下記の通り判定したので通知します。	
審査事項	<input type="checkbox"/> 新規申請 <input checked="" type="checkbox"/> 変更・追加申請
審査結果	<input checked="" type="checkbox"/> 承認 <input type="checkbox"/> 意見付承認 <input type="checkbox"/> 条件付承認 <input type="checkbox"/> 書類再審査 <input type="checkbox"/> 不承認 <input type="checkbox"/> 承認取消 <input type="checkbox"/> その他
備考	
<small>本課題を実施される際には、ヘルシキ宣言および関連法規、指針等の趣旨を十分に考慮して、研究計画書記載の内容から逸脱することなく実施していただきたいと存じます。</small>	
京都大学大学院医学研究科長 伊佐 正 公印者略	
京都大学医学部附属病院長 宮本 享 公印者略	

また、以下の6施設において、研究実施の承諾を書面で得た。

大学病院：岡山大学医学部附属病院、岐阜大学医学部附属病院、神戸大学医学部附属病院、三重大学医学部附属病院

一般病院：伊勢赤十字病院、大垣市民病院

2022年度中に神戸大学医学部附属病院にてインタビュー調査を実施し、研究計画に基づいて実施可能であることが確認できた。また、得られたキーワードを下図にまとめた。

キーワード一覧表 がん			
きっかけ	中央センターの設立	腫瘍内科の医師のリーダーシップ	診療報酬の改定
メリット	患者、治療	がん治療の精度が高まる	副作用フォローの確実性向上 治療の安全性向上
		検査の確実性の向上	患者の診察時間短縮 患者満足度
	医師	医師の業務負担軽減	
	薬剤師	他職種との連携	薬剤師の業務負担軽減 薬局との連携
ハードル	構造	場所がない	業務が点数につながらない
	医師	診療科、個人の医師による	医師の立場 内科の研修医の教育の妨げになる
	薬剤師	薬剤師の業務負担	個人の業務負担 業務の持続可能性
		マンパワー	治療に対する責任 若手薬剤師への教育
	時間		タスクシフトの実現可能性の判断 患者の質問への対応
解決策	事前の取り決め	医師からのニーズを把握する	副作用対策の共通化
		現在の薬剤師業務の整理	システム作り 非薬剤師・機械へのタスクシフト
		抗がん剤以外の点滴を別の場所で行う	

F. 健康危険情報

該当なし。

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

さらに、患者のニーズを調査するアンケート調査の原案を作成し、がん患者の会「がんママカフェ」のメンバーにご協力をいただき、アンケート案を確定した。現在、倫理委員会に申請中である。

がん治療中の皆さんが抱える様々な悩みや問題に対して 病院薬剤師が支援できることがあります 薬剤師までご相談ください

がん・がん治療に関すること

- 抗がん剤の作用の仕方、効果・効果に関する説明
- がん治療に伴う副作用に関する相談
- 副作用症状を和らげる薬についての説明
- 主治医に相談しづらい、聞けずにいることに関する相談
- がんの診療費に関する相談
- がん治療に関する悩みのケア
- がんの痛みに関する相談 (緩和ケア)
- 癌の検査に用いる薬物検査に関する説明・情報提供
- 在宅療養・ホスピスに関する相談・支援
- がんの最新治療法 (最新治療法) に関する情報提供

がん治療以外のお薬に関すること

- がん治療に関わりがない常用薬に関する相談
- 服用が苦手な薬 (錠剤・カプセル・注射液) に関する相談
- 服用できず手元にある薬の廃棄に関する相談 (薬を減らす相談)
- 日常生活での注意点や生活習慣に関する説明・相談
- がん治療中の仕事や学業に関する相談・支援
- サプリメントや市販薬についての相談
- 薬の飲み合わせに関する確認・情報提供
- 薬の服用状況の確認 服薬状況改善のための支援
- 栄養指導 食事指導
- がん治療による症状・出来への影響についての説明

がん治療中の日常生活に関すること

- 17 日常生活での注意点や生活習慣に関する説明・相談
- 18 がん治療中の仕事や学業に関する相談・支援
- 19 栄養指導 食事指導
- 20 がん治療による症状・出来への影響についての説明

D. 考察

研究計画の立案は完了し、パイロット調査を開始している。患者へのアンケート調査の準備も進んでおり、引き続き、研究を遂行していく。

E. 結論

当初の研究計画どおりに研究が進んでいる。